

平成28年度「全国学力・学習状況調査」狛江市の結果

「全国学力・学習状況調査」が平成28年4月19日（火）に実施され、その結果が文部科学省から各小・中学校へ送付されるとともに、教育委員会へも報告されました。

「全国学力・学習状況調査」は平成19～21年度の3年間悉皆で調査されましたが、平成22年度から抽出調査に切り替えられました。（平成23年度は東日本大震災の影響で中止）しかし、抽出調査に変更されたことにより、「各都道府県の状況についてはおおむね把握できるが、詳細な状況把握及び分析等には生かしくなっている」という課題から、平成25年度から悉皆調査として実施されています。

平成28年度は、国語（A・B）算数・数学（A・B）が悉皆で実施されました。市内の小・中学校の結果の分析についてまとめましたので、御報告いたします。

調査の概要

調査実施日 平成28年4月19日（火）

調査の目的 ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
 ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

調査対象 国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

① 科に関する調査（国語、算数・数学）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査（※）	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 （例）国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）学力向上や学習の定着に向けた取組、習熟度別少人数指導、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

時間割

◎小学校（児童質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

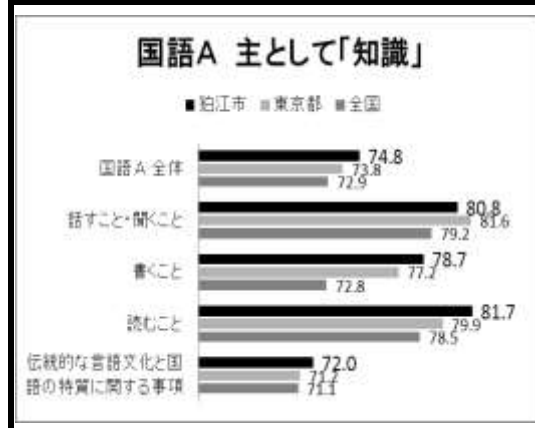
1時限目（45分）	2時限目（45分）	3時限目（45分）	
国語A（20分）、算数A（20分）	国語B（40分）	算数B（40分）	児童質問紙（20分程度）

◎中学校（生徒質問紙は、5時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目（50分）	2時限目（50分）	3時限目（50分）	4時限目（50分）	
国語A（45分）	国語B（45分）	数学A（45分）	数学B（45分）	生徒質問紙（20分程度）

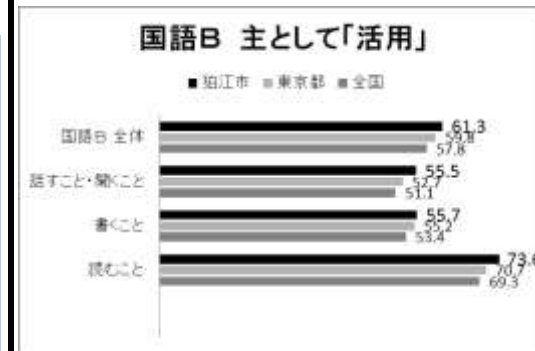
受検者数 【小学校】第6学年 527人 【中学校】第3学年 429人

小学校



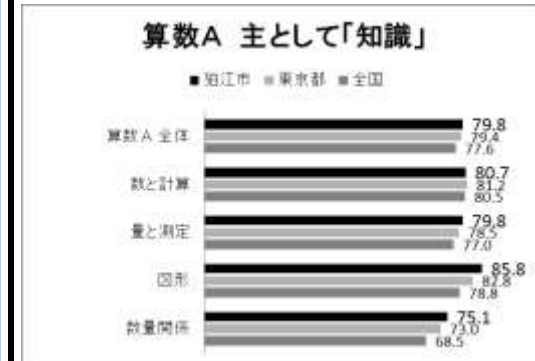
◇「書くこと」では「目的や意図に応じて、書く事柄を整理することができるかどうかをみる」問題は、概ね満足できる結果となりました。

◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、都・国の平均を上回りましたが、「平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりできるかどうかをみる問題」は、国・都の平均を下回りました。



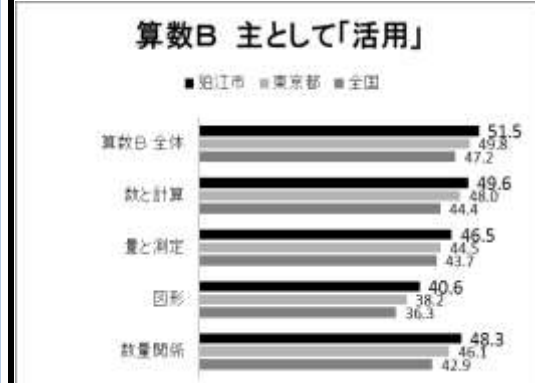
◇「話すこと・聞くこと」で「質問の意図を捉えることができるかどうかをみる」問題は国・都の平均を5ポイント以上上回りました。「読むこと」及び「書くこと」では、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるかどうかをみる問題」は国・都の平均を6ポイント以上上回りました。

◆「書くこと」で、「目的や意図に応じて、グラフや表を用いて、自分の考えが伝わるように工夫して活動を報告する文章を書くことができるかどうかをみる問題」は、国・都の平均を下回りました。



◇「図形」は都・国の平均を上回り、「直方体における面と面の位置関係を理解しているかどうかをみる問題」では、都を3ポイント、国を8ポイント以上上回りました。

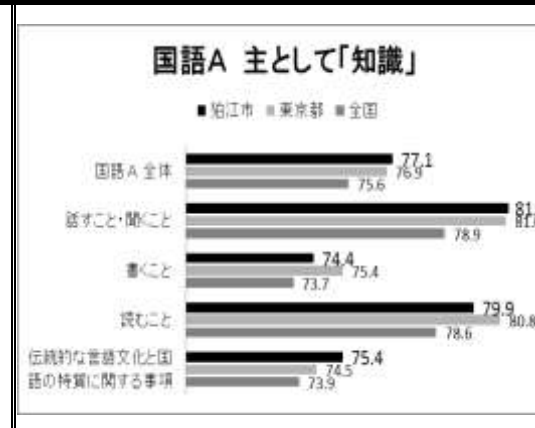
◆「数と計算」では、都の平均を下回っており、「末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができるかをみる問題」に課題が見られました。



◇どの領域でも都の平均を上回りました。「日常生活の事象を数理的に捉え、示された情報を基に場面を適切に式に表して問題を解決することができるかどうかをみる問題」では、都を3ポイント、国を7ポイント上回りました。

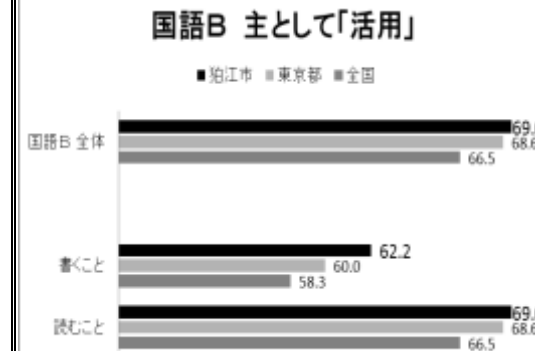
◆都・全国平均を上回ったものの、示された形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することができるかどうかをみる問題の正答率が10%台前半程度と低い結果となりました。

中学校



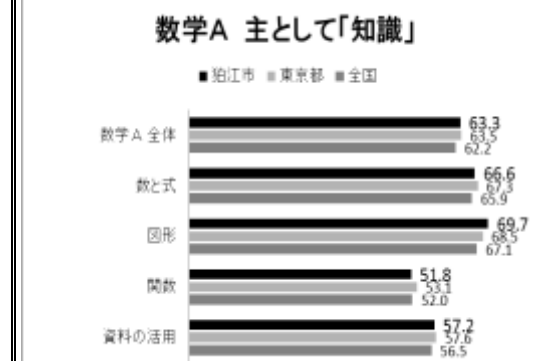
◇「話すこと・聞くこと」では「聞き手の立場を想定し、話の中心的部分と付加的部分との関係に注意して話す」問題で国や都の平均を3ポイント程度上回りました。

◆「読むこと」における、「文章の構成や展開について自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題」、「書くこと」における「全体と部分との関係に注意して話を構成することができるかどうかをみる問題」では、都の平均を下回りました。



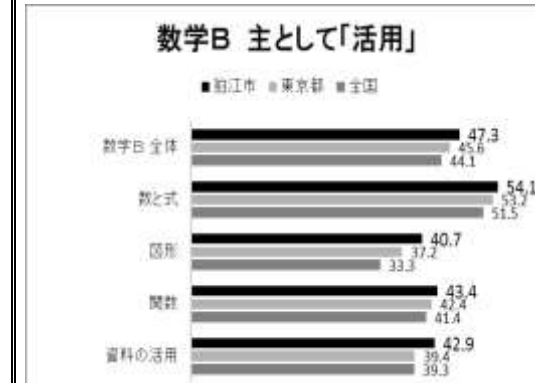
◇全ての領域において、国・都の平均を上回っています。「本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」問題では、都を4ポイント、国を6ポイント以上上回りました。

◆「読むこと」で、「文章の展開に即して内容を理解する問題」、「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることができるかどうかをみる問題」に課題が見られました。



◇「図形」の「垂線の作図の方法について理解しているかをみる」問題では都、国を5ポイント以上上回りました。

◆「数と式」の「具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることができるかどうかをみる問題」、「関数」の「具体的な事象における2つの数量の関係が反比例の関係になることを理解しているかどうかをみる問題」では、国・都の平均正答率を下回り課題が見られました。



◇ほとんどの領域で都の、全ての領域で国の平均を上回っています。「図形」の「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」問題で都・国の平均を上回っています。

◆全国平均を上回ったものの、「与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題」の正答率が20%を切るなど、低い結果となりました。